

# 進化するタイと日本企業

日本企業のタイ進出の歴史は長い。

日系企業の海外拠点数では、中国、米国に次いで多い。在留邦人数でも4番目。

日本とタイは強い絆で結ばれているように見える。

しかし、タイが経済発展を遂げる中、日系企業を取り巻く事業環境には変化が起きている。

日系企業の国別拠点数

順位	国/地域	企業拠点数
1	中国	31,324
2	米国	8,673
3	タイ	5,856
4	インド	4,901
5	ベトナム	2,373

国/地域別在留邦人数推計

順位	国/地域	在留邦人数 (単位:千人)
1	米国	419
2	中国	102
3	オーストラリア	95
4	タイ	78
5	カナダ	74

出所：外務省「海外進出日系企業拠点数調査」(2022年10月1日現在)

出所：外務省「海外在留邦人数調査統計」(2022年10月1日現在)

## 中期的な有望国/地域 ランキングの推移

2002年

順位	国/地域	得票率
1	中国	89%
2	タイ	28%
3	米国	26%
4	インドネシア	15%
5	ベトナム	15%
6	インド	13%
7	韓国	8%
8	台湾	8%
9	マレーシア	8%
10	ブラジル	5%

2012年

順位	国/地域	得票率
1	中国	62%
2	インド	56%
3	インドネシア	42%
4	タイ	32%
5	ベトナム	32%
6	ブラジル	26%
7	メキシコ	14%
8	ロシア	13%
9	米国	10%
10	ミャンマー	10%

2022年

順位	国/地域	得票率
1	インド	40%
2	中国	37%
3	米国	32%
4	ベトナム	29%
5	タイ	23%
6	インドネシア	21%
7	マレーシア	8%
8	フィリピン	8%
9	メキシコ	7%
10	台湾	6%

出所：国際協力銀行「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告」(2002年度、2012年度、2022年度)

タイは市場の成長性と「産業集積」が上位の有望理由として挙げられる一方、

「労働コストの上昇」「管理職・技術系人材の確保が困難」など労働市場の変化が指摘されている。



進化するタイとどう向き合えばよいのか。

タイでの経験が豊富な専門家の皆さんの意見は。

(インタビュー記事の聞き手は、日外協 国際人事センター長 坂本冬海)

### ASEAN 6 各国と日本・中国・インドの基礎データ (2022 年)

人口			GDP			1 人当たり GDP		
順位	国/地域	百万人	順位	国/地域	十億ドル	順位	国/地域	ドル
1	インド	1,417	1	中国	17,886	1	シンガポール	82,808
2	中国	1,412	2	日本	4,238	2	日本	33,854
3	インドネシア	275	3	インド	3,390	3	中国	12,670
4	日本	125	4	インドネシア	1,319	4	マレーシア	12,466
5	フィリピン	112	5	タイ	495	5	タイ	7,070
6	ベトナム	99	6	シンガポール	467	6	インドネシア	4,798
7	タイ	70	7	マレーシア	407	7	ベトナム	4,087
8	マレーシア	33	8	ベトナム	406	8	フィリピン	3,624
9	シンガポール	6	9	フィリピン	404	9	インド	2,392

出所：World Economic Outlook Database (October 5, 2023) を元に日外協作成